

令和 6 年度 事業報告書

社会福祉法人 長崎市社会福祉事業団

目 次

総括	1
I 事務局	2
II 身体障害者福祉センター A 型	10
III 地域活動支援センター II 型事業	13
IV 障害児等療育支援事業	14
V 相談支援事業	19
VI 自立訓練（機能訓練）事業	23
VII 障害者就労支援相談所運営事業	25
VIII 児童発達支援センター「さくらんぼ園」（単独通園）	26
児童発達支援センター「さくらんぼ園」（親子通園）	33
保育所等訪問支援事業所「さくらの木」	36
IX 診療所	37
参考 「利用状況の推移」	43

総 括

当事業団は、長崎市障害福祉センターの指定管理者として、施設の安全管理の徹底、福祉サービスの質の向上を図るとともに、健全な経営に努めました。

令和 6 年度は身体障害者福祉センター A 型事業の利用者数が増加するなど、感染対策を引き続き取りながらも少しずつコロナ前の状態に戻りつつあるというような状況です。また、文化祭につきましても、令和 6 年度は障害者就労施設等の出店によるマルシェを初開催し盛況を博すなど、たくさんの観客に見守られながら大いに盛り上がったところです。

事務局では、総合的な企画・調整や経営に関する総括的な管理業務の中で、理事会・評議員会の開催や予算・決算業務を行うほか、事業団職員の資質向上を図るため、外部研修会への参加を促すとともに内部研修会も実施し人材育成に努めました。

また、各障害者団体や利用者からのご意見やご要望について、適切に対応し改善に努めるとともに、各種会議に参加することで地域福祉の増進に貢献しました。

さらには、診療所への電子カルテシステムの令和 7 年 5 月 1 日導入に向け調整を進めました。

成人部門では、障害者が自立した社会生活を営むことができるよう、それぞれの環境に応じた機能訓練や日常生活訓練、またスポーツ・レクリエーションを通じた訓練を行いました。

貸館等のサービスにおいても、利用者にも基本的な感染防止対策の協力をお願いしたうえで、趣味・教養・健康づくり等のレクリエーション活動を支援しました。

小児部門では、診療と療育部門において発達に障害がある児童等を早期に発見し、それぞれの状況に対応した適切な療育を実施するため、相談・診察・評価で得られた総合的な結果に基づく治療、個別訓練や小集団による療育指導を行うほか、保護者への支援に努めました。

なお、診療所においては、令和 6 年度に常勤医師を 1 名増員することができ、10 か月程度あった待機期間を令和 6 年度末では 6 か月を少し下回るくらいまで短縮することができました。

また、児童発達支援センター「さくらんぼ園」が持つ専門機能を活かし、心身の発達に遅れのある未就学児を対象に、遊びを中心に据えた療育と基本的生活習慣の確立・コミュニケーション能力の育成に努めるとともに、親子通園の「きりん組」では、児童の発達状況と障害の程度を考慮してグループ分けし、それぞれの状況と障害の程度に応じた発達支援に努めました。

さらには、集団生活にうまく適応できない保育所等に通っているお子さん支援を行うために、保育所等訪問支援事業所「さくらの木」を令和 7 年 1 月に開設しました。

障害児等の療育支援では、外来による療育指導のほか、感染防止対策を徹底して専門療法士による幼稚園等への訪問指導を行うとともに、学校や幼稚園・保育園等の職員が障害児に適切な対応ができるよう、療育技術の指導を行いました。

成人・小児の両部門に関わる**相談支援**では、障害児・者やその家族等の相談に対し、課題を把握しながら、ケアマネジメントに基づいた福祉保健医療サービスの調整や関係機関との連絡調整をする等支援しました。また、障害者の就労が実現できるよう相談支援や就労準備のための支援に努めました。

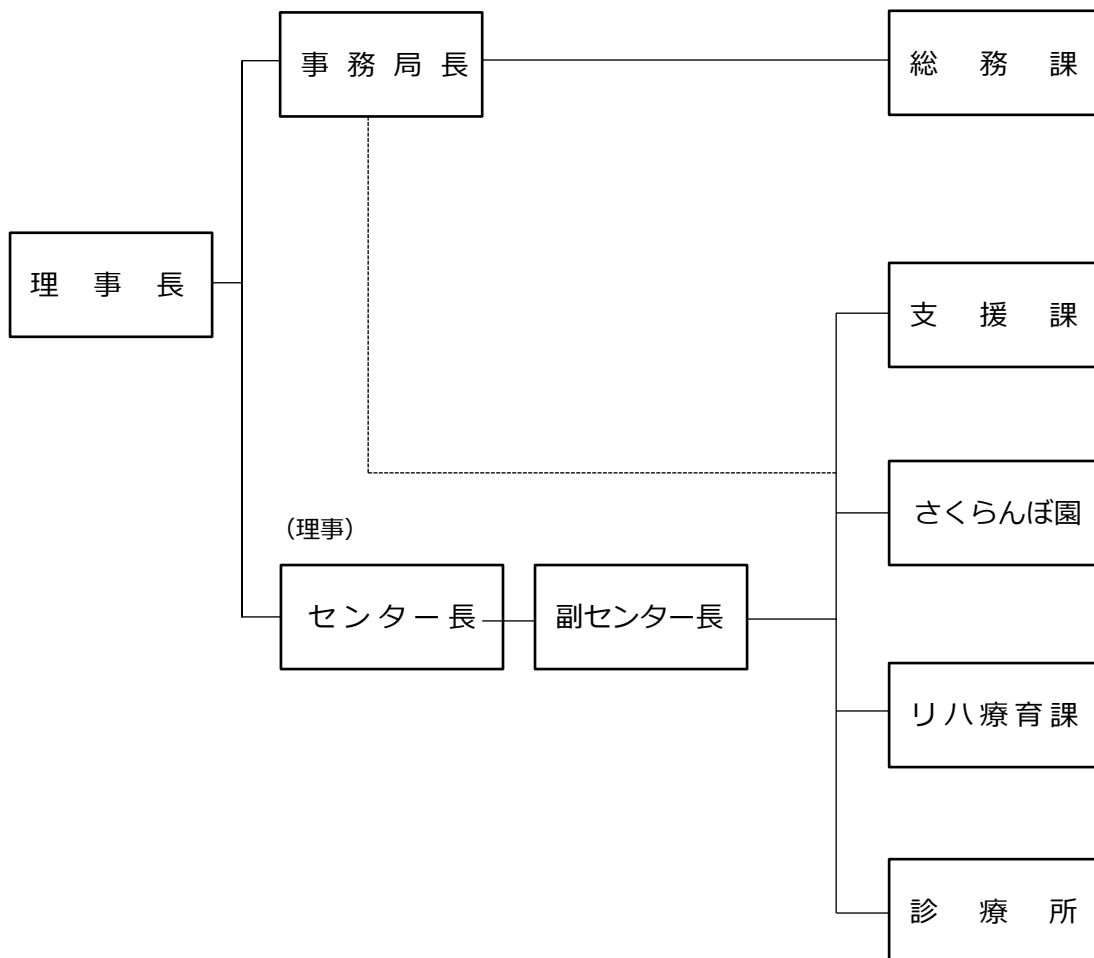
今後とも、地域福祉の増進を図るため、利用者のニーズに応じた利用者本位のサービスを提供していくとともに、安定した経営組織の構築を図り、透明性の高い施設運営に努めてまいります。

I 事務局

1 施設・事業の形態

施設・事業名	事業形態
事務局	長崎市受託事業
身体障害者福祉センター A 型	
地域活動支援センター II 型事業	
障害児等療育支援事業	
自立訓練（機能訓練）事業	
相談支援事業	
障害者就労支援相談所運営事業	
児童発達支援センター「さくらんぼ園」	
保育所等訪問支援事業（R7.1 月から）	
診療所	

2 組織図 （令和 7 年 3 月末現在）



3 組織及び職員配置 (表内の人数は定数)

課名	業 務 内 容	職種等の状況	職員数 (配置数)				
			正規	嘱託	再雇用	市派遣	非常勤
		・ 理事長		1			
総務課	・ 法人業務に関すること ・ センターの総務に関すること ・ 建物の維持管理に関すること	・ 事務局長 ・ 事務職員	2	4		1 1	
支援課	・ 相談支援業務に関すること ・ 身体障害者福祉センター業務の主に講座、貸館に関すること ・ 地域活動支援センター事業に関すること ・ 自立訓練（機能訓練）事業に関すること ・ 貸館業務に関すること ・ 手話通訳に関すること ・ 送迎に関すること	・ ソーシャルワーカー ・ 相談員 ・ 障害者就労支援相談員 ・ 聴覚言語相談員 ・ 手話通訳士・者 ・ 視覚障害リハビリテーション指導員 ・ 事務職員 ・ 運転士 ・ プール監視員	4 2 1	3 2 1 1 3			3 5
さくらんぼ園	・ 児童発達支援センターに関する こと ・ 保育所等訪問支援事業に関する こと ※調理員のうち2は隔日勤務のため実質2人	・ 園長 ・ 保育士・児童指導員 ・ 栄養士 ・ 調理員 ・ 運転士	1 5	16 1 2	2		3※ 2
リハ療育課	・ リハビリに関すること ・ 発達障害者支援に関すること ・ 自立訓練（機能訓練）事業に関すること ・ 身体障害者福祉センター業務の主に訓練に関すること	・ 理学療法士 ・ 作業療法士 ・ 言語聴覚士 ・ 公認心理師 ・ 障害者スポーツ指導員	5 6 6 3	2 2 2			
診療所	・ 診療所に関すること 【非常勤嘱託医師7人の勤務状況】 小児科医6人…週2日勤務2人 週1日勤務3人 月2日勤務1人 精神科医1人…月1回勤務	・ センター長（医師） ・ 副センター長（医師） ・ 診療所長（医師） ・ 医師 ・ 看護師 ・ 医療事務職員 ・ クラーク ・ 事務職員 ・ 公認心理士	 1 2 1	1 1 5 2 2 1			7 2 1
計 (118名)			39	52	2	2	23

* 3月末現在のため上表には記載していないが、R7年度から下記のとおり予定している

- ・ さくらんぼ園の体制強化のため、保育士4人（常勤嘱託）を正規化し、計画相談業務のため社会福祉士1人（正規）を増員する。
- ・ 医師の事務負担軽減のため、クラーク1人（常勤嘱託）を増員する。

4 理事会の開催

	開催日・開催場所	議 案	結果
第1回	令和6年5月31日	1 社会福祉法人長崎市社会福祉事業団評議員選任・解任委員会の運営細則の一部改正について 2 社会福祉法人長崎市社会福祉事業団評議員選任・解任委員の選任について 3 令和5年度社会福祉法人長崎市社会福祉事業団事業報告について 4 令和5年度長崎市社会福祉事業団決算について 5 令和6年度長崎市社会福祉事業団定時評議員会の開催について その他 理事長の業務執行状況報告	可決 可決 承認 承認 可決
第2回	令和6年11月19日	1 社会福祉法人長崎市社会福祉事業団理事候補者について 2 社会福祉法人長崎市社会福祉事業団定款の一部変更について 3 社会福祉法人長崎市社会福祉事業団指定保育所等訪問支援事業所「さくらの木」運営規程の制定について 4 社会福祉法人長崎市社会福祉事業団指定児童発達支援センター「さくらんぼ園」運営規程の一部を改正する規程について 5 社会福祉法人長崎市社会福祉事業団指定自立訓練（機能訓練）事業運営規程の一部を改正する規程について 6 社会福祉法人長崎市社会福祉事業団指定特定・指定障害児・指定一般相談支援事業所運営規程の一部を改正する規程について 7 社会福祉法人長崎市社会福祉事業団令和6年度補正予算（第1号）について 8 社会福祉法人長崎市社会福祉事業団令和6年度第1回臨時評議員会の開催について	可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決
第3回	令和7年1月17日	1 社会福祉法人長崎市社会福祉事業団給与規程の一部を改正する規程について 2 社会福祉法人長崎市社会福祉事業団補正予算（第2号）について	可決 可決
第4回	令和7年3月24日	1 社会福祉法人長崎市社会福祉事業団給与規程の一部を改正する規程について 2 社会福祉法人長崎市社会福祉事業団就業規則の一部を改正する規則について 3 社会福祉法人長崎市社会福祉事業団嘱託員等就業規則の一部を改正する規則について 4 社会福祉法人長崎市社会福祉事業団再雇用職員就業規則の一部を改正する規則について 5 社会福祉法人長崎市社会福祉事業団育児休業等に関する規則の一部を改正する規則について 6 社会福祉法人長崎市社会福祉事業団経理規程の一部を改正する規程について 7 社会福祉法人長崎市社会福祉事業団旅費規程の全部改正について 8 令和6年度社会福祉法人長崎市社会福祉事業団補正予算（第3号）について 9 令和7年度社会福祉法人長崎市社会福祉事業団事業計画について 10 令和7年度社会福祉法人長崎市社会福祉事業団予算について その他 理事長の業務執行状況報告	可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決

5 評議員会の開催

	開催日・開催場所	議 案	結果
定時	令和 6 年 6 月 21 日	1 令和 5 年度社会福祉法人長崎市社会福祉事業団決算について 報告 令和 5 年度事業報告について	承認
臨時 第 1 回	令和 6 年 11 月 19 日	1 社会福祉法人長崎市社会福祉事業団理事の選任について 2 社会福祉法人長崎市社会福祉事業団定款の一部変更について	可決 可決

6 監査の実施

	実施日・開催場所	監 査 項 目
監事 監査	令和 6 年 5 月 21 日 令和 6 年 5 月 22 日 於：1 階相談室 B	令和 5 年度事業実施に関する事項 令和 5 年度会計・決算に関する事項

7 要望や苦情等の対応状況

(1) ハートセンター懇談会における要望事項及び対応状況

- ・一般社団法人長崎市心身障害者団体連合会主催による懇談会。
これまでの要望が実現しているため、令和 6 年度は要望事項がなく開催していない。

(2) 各階設置のご意見箱等への主な「意見・苦情等」の対応状況

- ・回答については 1 階掲示板に掲示。(申出人が判明している場合は、直接、回答)
- ・第三者委員への報告会を年に 2 回開催。(令和 6 年 9 月 13 日・令和 7 年 3 月 14 日)

日 付	意見・苦情等	対 応 状 況
3 月 22 日	日曜日も機能回復訓練室を使えるようにしてほしい。	機能回復訓練室の機器は、安全確保の観点から職員が近くでサポートできる体制の下で利用していただく必要があるが、職員数が限られている中では困難である旨回答。
6 月 7 日	図書室に設置しているパソコンの OS について、メーカーのサポートが終了しているにも関わらず何の対策もなされていない。	新しいパソコンに入れ替える準備をしている旨回答。令和 6 年 11 月に入替が完了した。
6 月 28 日	1 階にある ATM がなくなると聞いたので残してほしい。	意見があったことを長崎市へ伝える旨回答。
6 月 28 日	正面玄関入口にある傘立てが壊れていて使用できない箇所がある。	長崎市へ購入をお願いする旨回答。令和 7 年 3 月に新しい傘立てを購入し入替が完了した。
7 月 12 日	シャワー室のカーテンに黒カビが発生している。	新品を購入し交換する旨回答。ご意見があった女性用だけでなく男性用も確認したところ、同様の状態であり、またカーテンレールにも錆びが発生していたことから、カーテンレールも含め交換した。
7 月 19 日	練習の度にふうせんバレーのアタックラインのテープを毎回貼っているの、貼ったままにできないか検討してほしい。	体育館は、ふうせんバレー以外にも様々な用途で利用していただいているため、次に利用される方が快適に利用できるよう、使用の度に原状回復していただきたい旨回答。

日 付	意見・苦情等	対 応 状 況
7月19日	発達検査後などの診察の予約方法を変えてほしい。	インターネットの活用なども含め、社会状況の変化に対応したよりよい予約方法を検討していく旨回答。
7月21日	図書室に設置されているパソコン2台のうち1台が故障したままなので早く修理してほしい。 利用できる1台のパソコンを職員が休みの日に使用している。	パソコンについては新しいパソコンと入れ替えることとしている旨回答。 (委託先の)職員が休みの日にパソコンを使用している件については、委託先の事業者へ他の利用者に配慮した対応ができないか検討をお願いした。
9月20日	車椅子専用のエレベータに、普通に歩行できる子や保護者が乗っているため、車椅子専用のエレベータがなかなかこない。	3台のエレベータのうち1台は寝台用エレベータとなっているが、特定のエレベータを車椅子専用と指定はしていない旨回答。
10月5日	車椅子を利用していない人も車椅子のエレベータに乗っているため、なかなかエレベータがこないから困る。	
10月25日	いつも本当にありがとうございます。	事務所内で供覧
11月29日	プール内の設備について、障害者トイレを温水洗浄便座に変えてほしい、更衣室のロッカーが使いづらいとのこと意見があった。	トイレについては、順次、温水洗浄便座への改修を行っている旨回答。 ロッカーの購入については、長崎市へ要望していく旨回答。
12月6日	5階図書室のパソコンを新しくしてくれてありがとうございます。感謝しかありません。	事務所内で供覧
1月10日	3階更衣室のロッカー前にスノコを設置してほしい。 パソコン室のパソコンが入れ替わったが、シャットダウンに15分かかる。	スノコを設置することで段差が生じたり、つまづいてケガをするおそれがあることや、視覚障害者や車椅子利用者にとって支障となることが考えられるため、ロッカー前にスノコを設置することは困難である旨回答 パソコンについては、システム更新などでシャットダウンに時間がかかることもあるため、更新終了を待たずにそのままの状態での退室可能な旨回答。
1月31日	立体駐車場の利用が難しいのに、確認が不十分なまま立体駐車場に案内された。	混雑解消を優先してしまい、運転者の状況確認がおろそかになってしまったことが原因ではないかと考えられるため、駐車場管理業務の受託者に対し、案内・誘導の手順を再確認するよう改めて指導を行った旨回答。
2月21日	オムツ替えスペースを広くしてほしい。	安心して利用できるよう他施設の事例も参考にしながら見直しを検討する旨回答。

8 講師派遣・会議出席・外部研修参加の状況

(1) 主な講師派遣の実績

講 演 内 容 等	主 催	時 期	派 遣 者
長崎大学医学部非常勤講師	長崎大学医学部	4～3月	小児科医師
ソーシャルワーク実習プログラム ・実習Ⅰ・Ⅱ実習指導協議会	長崎純心大学	6月	支援課長
発達障害児等能力開発・教育支援推進事業	長崎特別支援学校	7・10月	言語聴覚士
こども部会研修会(基礎講座)	長崎市自立支援協議会	7月	診療所長

講 演 内 容 等	主 催	時 期	派 遣 者
公共交通機関の安全利用に関する懇親会	長崎市視覚障害者協会	10 月	視覚障害者リハビリテーション指導員
福祉体験研修	長崎市総務部職員研修所	11 月	視覚障害者リハビリテーション指導員
長崎手話サークル	長崎手話サークル	11 月	手話通訳者 2 名
長崎県言語聴覚士会小児研修会	長崎県言語聴覚士会	2 月	医師 1 名、言語聴覚士 1 名
中小規模講座(人権講座)	長崎市人権男女共同参画室	2 月	手話通訳士

(2) 主な会議等への参加実績

会 議 内 容	主 催	時 期	参 加 者
長崎市障害者自立支援協議会	長崎市障害者自立支援協議会	4～3 月	支援課長、さくらんぼ園長
意思疎通支援・相談支援担当者会議	長崎県聴覚障害者情報センター	5・8 月	手話通訳士、聴覚言語相談員
児童発達支援センター等連絡会	長崎県立こども医療福祉センター	7 月	支援課長、さくらんぼ園長
長崎市障害者自立支援協議会	長崎市障害者自立支援協議会	4～3 月	障害者就労相談員
長崎西彼エリア長崎県医療的ケア児等コーディネーターネットワーク	長崎県医療的ケア児等支援センター	6 月	支援課長
長崎市親子支援ネットワーク地域協議会代表者会議	長崎市親子支援ネットワーク地域協議会	8 月	副センター長
長崎市消費者安全確保地域協議会総会	長崎市消費者安全確保地域協議会	9 月	支援課長
専任手話通訳者会議	九州地区専任手話通訳者連絡協議会	10 月	手話通訳士
長崎市社会福祉審議会児童福祉専門分科会	長崎市社会福祉審議会	11 月	支援課長
長崎県発達障害者支援センター連絡協議会	長崎県発達障害者支援センター連絡協議会	1 月	支援課長
長崎地域障害者雇用連絡会議	長崎公共職業安定所	2 月	障害者就労相談員

(3) 主な外部研修への参加実績

研 修 内 容	開 催 場 所	時 期	参 加 者
第 66 回日本小児神経学会学術集会	名古屋市	5～6 月	副センター長、診療所長、 医師 3 名
プール安全管理講習会	長崎市	5 月	保育士 1 人
STRAW-R 講習会	オンライン研修	5・7 月	言語聴覚士 3 名
長崎県サービス管理責任者等基礎研修	長崎市	7 月	保育士 2 人
長崎県相談支援従事者初任者研修	オンライン研修 大村市	9～11 月	支援課相談員 1 人 保育士 2 人
長崎県サービス管理責任者等実践研修	長崎市	8 月	保育士 1 人
長崎県強度行動障害支援者養成研修（基礎）	オンライン研修	8・9 月	保育士 2 人
長崎県パラスポーツ指導員スキルアップ研修会	諫早市	8 月	障害者スポーツ指導員 1 人
長崎県相談支援従事者現任研修	オンライン研修(9 月) 大村市(10・11・12 月)	9～12 月	看護師 1 人
長崎県サービス管理責任者等更新研修	長崎市	11 月	保育士 2 人
日本作業療法士学会	東京都	11 月	作業療法士 1 人
WISC-V 知能検査講習会	東京都	12 月	臨床心理士 1 人
長崎県強度行動障害支援者養成研修（実践）	長崎市	12 月	保育士 1 人
長崎県 ICT 導入モデル事業に係る ICT 導入研修会	オンライン研修	12 月	総務課 1 人、支援課 1 人
視覚障害者生活支援研修会	埼玉県	12 月	視覚障害者リハビリテーション指導員
特定給食施設等調理従事者研修会	オンライン研修	12～3 月	栄養士 1 人、調理員 3 人
改正育児・介護休業法説明会	長崎市	1 月	総務課 1 人
意思疎通支援・相談支援担当者研修会	大村市	2 月	手話通訳者 3 人
長崎県就労選択支援研修会	諫早市	2 月	障害者就労相談員
支援者向け子どもと大人のきずなを深める CARE プログラム	長崎市	3 月	作業療法士 1 人

(4) 主な内部研修の実施状況

研 修 内 容	実 施 日	参 加 者
新任職員研修	4/1・15	R 6 年度採用者及び前年度未受講者
虐待防止研修	9/6	全職員（一部は後日、録画視聴で実施）

9 その他

(1) 消防避難訓練

期 日	実 施 対 象	訓 練 内 容
令和 6 年 10 月 18 日	ハートセンター全館 (実施主体：長崎市社会福祉事業団)	・ 初期消火及び避難誘導 ・ 本部、救護所の設置及び避難時間計測 ・ 水消火器による模擬消火体験 ・ 長崎北消防署による講評
令和 7 年 2 月 21 日	ハートセンター全館 (実施主体：長崎原子爆弾被爆者対策協議会)	・ 初期消火及び避難誘導 ・ 本部、救護所の設置及び避難時間計測

(2) 広 報

広報紙「もりまち通信」を年 4 回（4 月・7 月・10 月・1 月 各 500 部）発行し、関係機関や施設へ配付した。

配付先 長崎市関係課・地域センター・地区公民館・学校・相談支援事業所・病院・療育機関 等

Ⅱ 身体障害者福祉センターA型

障害者に対し、機能訓練、教養の向上、社会との交流促進及びスポーツ・レクリエーション等、総合的なサービス提供を行った。

1 実施内容

(1) 令和6年度末センター登録者数

(単位：人)

視 覚 障 害	50	聴 覚 障 害	53	延人数 911 実人数 831
音声・言語	35	肢体不自由	305	
内 部 障 害	83	知 的 障 害	172	
精 神 障 害	179	そ の 他	34	

(2) 貸館業務

プール・体育館等の運動施設や、研修室・会議室等の文化教養施設を障害者団体やボランティアグループ等に無料で広く開放。また、一部の施設は一般の団体・個人へ有料で開放。

休館日は、毎月第4日曜日及び年末年始（12月29日～1月3日）。木・土曜日は夜間開放。

《年度別貸館利用者数》

(単位：人)

	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
利用者数	39,235	36,495	47,864	53,474	58,138

(3) センターA型・機能訓練

理学療法士、指導員等の支援のもと、集団体操やふうせんバレー等のスポーツ・レクリエーションを通したリハビリテーションを実施した。プログラムは、障害の状況や利用者の好みに応じて自由に選択できるようになっている。

① 年度別利用者数

(単位：人)

	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
利用者数	9,502	9,736	11,876	10,924	9,418

② 令和6年度 センターA型・機能訓練利用者数内訳

(単位：人)

内 容	視 覚 障 害	聴 覚 障 害	言 語 障 害	肢 体 障 害	内 部 障 害	知 的 障 害	精 神 障 害	そ の 他	合 計
プール	2	35	30	960	213	35	19	69	1,363
スポ・レク訓練	674	157	96	2,804	6	223	330	2	4,292
自主訓練	365	35	26	2,675	3	6	177	0	3,287
作業訓練（手工芸）	5	155	0	63	14	0	23	5	265
言語訓練	0	0	202	9	0	0	0	0	211
合 計	1,046	382	354	6,511	236	264	549	76	9,418

(4) 年間行事

利用者間の交流と日頃のリハビリ活動の成果発表を目的に、競技会・体験会等を開催した。今年は、コロナ禍で実施を見合わせていた運動会(旧レクリエーション大会)や新春ふうせんバレーボール大会のぜんざい会を数年ぶりに実施し、利用者から好評を得ることが出来た。

行 事 名	実施日	参加人数 (ボランティア等含む)
水泳記録会	5月23日	7人
チャレンジボッチャ	7月3日	38人
もりまちミニ運動会	11月8日	50人
体力測定会	12月9・10・12日	27人
新春ふうせんバレーボール大会・ぜんざい会	令和7年1月16日	31人
お花見ウォーキング&モルック体験会	3月27日・4月1日	18人

(5) 講座

障害者の社会参加・センターの利用促進・仲間づくりの場を提供するため、文化・芸術・スポーツなど多様な講座を実施。

① 年度別利用者数

(単位：人)

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
利用者数	75	100	264	240	296

※サポーター養成研修は別掲

② 令和6年度講座利用者数内訳

(単位：回、人)

内 容	回数	延参加者数
大人のぬり絵講座	3	32
フラワーアレンジメント	1	12
ボッチャ体験講座	1	17
車椅子バスケットボール体験講座	1	19
みんなで学ぼう 長崎スタジアムシティ	1	49
栄養講座	2	57
良い睡眠でこころの健康づくり(出前講座)	1	25
ある日突然バスが来なくなる(出前講座)	1	35
お口の健康アップ術(出前講座)	1	22
捨てるだけではもったいない食品ロス削減と不用品の再使用(出前講座)	1	28
スマホ講座(視覚障害者対象)	※悪天候のため中止	
防災セミナー(出前講座)	※悪天候のため中止	
合 計	13	296

(6) 地域との交流事業

利用者の練習成果の発表の場として「ハートセンター文化祭」を実施。展示部門はセンター各階に11月1日から障害者週間終了までの40日間の分散展示を行った。

名称等	期日	内容・目的	観覧者数
ハートセンター文化祭	11月17日	ステージ発表(10団体)	約450人
	11月1日～12月10日	展示と活動紹介(22団体)	—

(7) 手話通訳設置事業

市役所に配置されている手話通訳者と連携を図りながら、センター内外での手話通訳をはじめ、タブレットによるメールやビデオ通話を含めた聴覚障害者の相談支援等に努めた。

《年度別手話通訳件数》

(単位：件)

	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
手話通訳件数	2,826	3,368	3,678	3,895	4,029

(8) サポーター養成研修会

当センターの事業のサポーター養成のため研修会を実施した。

《年度別参加者数》

(単位：人)

	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
参加者数	(中止)	11	15	17	30

【総論】

令和6年度については、利用者数は徐々に増加傾向となりコロナ禍前の人数に戻りつつある。

講座については、ボッチャや車椅子バスケットボール等、障害者スポーツ体験講座を学童児等を中心に親子で参加しやすい日曜日に開催するなど新たな取り組みを行い好評だった。また、10月にセンターの近隣に「長崎スタジアムシティ」が開業したことに伴い、スタジアムシティの施設や設備、店舗の案内などの説明について運営会社と共同で講座を実施したところ、利用者に好評であった。

また、9月にはスポーツ庁次長が障害福祉センターのスポーツ施設を視察され、障害者スポーツの拠点として優れているとのご意見をいただき、これからの障害者スポーツの発展に向けて、指導者の育成の充実などを要望した。

Ⅲ 地域活動支援センターⅡ型事業

在宅の障害者に、創作的活動や社会との交流を通して身体機能の維持向上と生きがいを高めてもらうプログラムを提供した。

なお、一部の事業については身体障害者福祉センター A 型と合同で実施した。

1 契約者の推移

各年度末 (単位：人)

	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
契 約 者 数	257	300	370	413	453

2 利用者数の推移及び内訳

(1) 年度別利用者数

各年度末 (単位：人)

	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
利用者延べ人数	7,911	6,476	7,293	6,966	6,646

(2) 利用者数内訳

(単位：人)

内 容	視覚障害	聴覚障害	言語障害	肢体障害	内部障害	知的障害	精神障害	その他	合 計
スポ・レク訓練	0	0	0	670	4	0	0	0	674
自主訓練	0	1	0	210	1	0	0	0	212
手 工 芸	15	156	2	549	5	0	0	11	738
陶 芸	0	0	15	80	39	16	28	6	184
パソコン	0	15	16	57	97	13	40	1	239
入 浴	268	634	230	1,839	606	172	850	0	4,599
合 計	283	806	263	3,405	752	201	918	18	6,646

【総論】

センターの利用者数が増加する中で、当該事業の利用者数の主たる人数を占める手工芸や入浴サービスについては昨年度の数を下回っているが、これは新規の利用者が少なく、既存の利用者が高齢化していることから利用中止や体調不良等による欠席が大きいと考えている。

今後とも、新規利用者獲得のための周知をはじめ、障害の種別や年齢に関係なく利用者が参加しやすいようなプログラム作りに努め、利用者増に繋げていきたい。

IV 障害児等療育支援事業

他機関との重層的な連携のもと、在宅の重度障害児・者、知的及び身体の障害児・者が、地域での療育相談や指導が得られるようにすることを目的として、「外来による療育指導」「訪問による療育指導」「施設職員等に対する療育技術指導」を柱に地域支援を行った。

1 事業内容

(1) 外来による療育指導

保護者支援として、検査結果の説明や訓練の目的や内容についての説明、家庭生活や園生活での困りごとや心配事への指導・アドバイス等を行っていたが、昨年度から、医療として行った検査結果の説明や生活への指導、アドバイス等は、福祉サービスではなく医療サービスとしての実施が望ましいという考えにより診療所の訓練の中に含むようにしたため、件数が減少している。

毎週木曜日午前の早期療育外来（整形外科）の診察の際には、理学療法士が同席し、その後の療育指導が円滑に行えるようにしており、午後の整形外科外来診察においても理学療法士が同席し、補装具の作製などに関する助言をしている。

このほか、おやこ広場や就学児相談会などの診療所訓練外の療育支援、診療外での保護者支援も行った。

①年度別職種毎の指導件数

(単位：件)

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
理学療法士	540	357	151	10	0
作業療法士	570	933	752	95	13
言語聴覚士	485	981	1,020	87	0
臨床心理士	1,158	801	762	145	0
保 育 士	26	32	50	38	39
スポーツ指導員	165	119	231	141	0
合 計	2,944	3,223	2,966	516	52

※きりん組園児への指導件数

(単位：件)

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
作業療法士	405	206	194	117	166
言語聴覚士	158	485	222	86	0
臨床心理士	146	100	165	50	0
合 計	709	791	581	253	166

②おやこ広場

発達や育児に関する疑問や不安を抱えている 2 歳までの早期産児・出生時ハイリスク児の保護者を対象に、親子遊び・講話・交流会からなる自由参加型のグループを設け、情報交換や交流の場とした。担当は、理学療法士、保育士を中心とし、テーマによりソーシャルワーカー、言語聴覚士、作業療法士が講師を務めた。

令和 6 年度は近隣の医療機関等への配布を行ったが、問い合わせや紹介などはなく、当センター療育児への声かけも実施したが、対象者が少ないため、前年度より減少傾向にあった。

《6 年度別利用者数》

(単位:人)

年 度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
利用者数	14	8	9	24	16

《令和 6 年度実施状況》

(単位:人)

実施日	講 話	参加数	実施日	講 話	参加数
5 月 1 日	みんなで楽しく身体を動かそう	2	9 月 4 日	おやこのきずなを深める遊び	2
6 月 5 日	おやこで一緒に作ろう!	3	10 月 2 日	ことばを育むためには	2
7 月 3 日	やってみよう! おうちでできる感覚遊び	3	11 月 6 日	おはなし会	2
8 月 7 日	みんなで涼しくなろう	0	12 月 4 日	クリスマス会	2

③就学児相談会

1 学期終了後、夏休みの時期に開催案内と近況についてのアンケートを送付し実施した。

児の特性からくる集団での不適切な行動、学習理解等の苦手さ、情緒的な問題の相談内容が多かった。就学後も定期的に受診を続ける児も増えてきており、あらためての相談が必要な児は減ってきている。

◇開催日 令和 6 年 9 月から令和 7 年 1 月の希望日時

◇対 象 令和 5 年 4 月から令和 6 年 3 月までに当センターで療育または定期診察等を受けて、新 1 年生になった児童の保護者

◇内 容 事前に就学後の様子についてのアンケートを実施。学童グループや診察・処方・個別療育等でのフォローがなされていない児童で相談を希望した保護者に対して、各セラピストが個別で面談を実施し、助言や診察につなげるなどの支援を行った。

《年度別相談件数》

(単位:件)

	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
アンケート送付数	198	253	257	202	201
相談会案内送付数	106	88	121	149	107
相談件数	21	20	15	27	22

④待機児支援「りす組」

発達外来の診察や療育の待機の間、お子様の特性や発達状況について理解することや不安を抱える親子の交流の場を提供

◇開催日 令和6年4月から令和7年3月 月2回火曜の午前中に企画

◇対 象 療育待機または診察待機の親子（概ね3歳未満の子）

《令和6年度実施状況》

実施日	活 動	参加組	実施日	活 動	参加組
4月	コロコロで遊ぼう	1	10月	コロコロで遊ぼう	2
5月	ゆらゆらで遊ぼう他	3	11月	ビリビリで遊ぼう他	2
6月	パラパラで遊ぼう他	4	12月	クリスマスかざりをつくろう他	5
7月	ペタペタで遊ぼう	4	1月	豆まきごっこ他	4
8月	なつまつり他	3	2月	ペタペタで遊ぼう他	3
9月	お楽しみ会他	4	3月	お楽しみ会	2

⑤親子ルーム「くま組」

重い障害（医ケア含む）のあるお子様を対象に親子で楽しめるお遊びの場を提供

◇開催日 令和6年4月～令和7年3月 毎週金曜日 11:00～12:00

◇対 象 低年齢で歩行未獲得、重度の障害（医ケア含む）のあるお子様とその家族

《令和6年度実施状況》

実施日	活 動	参加組	実施日	活 動	参加組
4月	こいのぼりをつくろう	2	10月	ひらひら布遊び、ハロウィン製作他	12
5月	さらさら遊び他	8	11月	ペタペタ遊び他	14
6月	紙遊び、楽器遊び他	10	12月	クリスマス会他	7
7月	キラキラで遊ぼう他	7	1月	ボール遊び、もちつき遊び他	13
8月	しんぶんし遊び他	7	2月	マッサージ・ねんど遊び他	13
9月	音楽遊び他	12	3月	音楽遊び他	10

⑥インラインスケート&ラグビー親子教室

インラインスケートとラグビーという非日常的な運動活動に、親子で楽しく取り組む機会を設けることで、子どもの運動機能の向上と精神機能の安定に働きかけている。

◇開催日 令和6年6月～令和7年3月 毎月第2・4水曜日 16:00～17:00

◇対 象 当センター整形外科受診児童とその保護者

《令和6年度実施状況》

実施月	参加人数	実施月	参加人数	活動内容
4月	—	10月	31	みんなで「ハカ」を踊ろう ラグビーボールの特徴を知ろう 親子でパスをしよう いろんなパスを覚えよう みんなでボールをつなごう
5月	—	11月	47	
6月	42	12月	36	
7月	34	1月	46	スケートを履いて立ち上がる スケートで歩く・滑る スケートでの転び方 スケートで止まり方(ブレーキング) 他
8月	19	2月	47	
9月	47	3月	45	

(2) 訪問による療育指導

当センターで療育している幼児が通う保育園や幼稚園を訪問し、指導助言を行ったり、重症心身障害児に対し現状確認を行い、補装具の調整等の環境設定、ポジショニング等について助言指導等を行っている。スタッフの業務が多岐にわたっており、訪問ではなく、できるだけセンター内での指導を行うようにしている。

《訪問療育指導数》

(単位：人)

訪 問 先	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
家 庭	9	6	1	2	0
保育園・幼稚園	31	13	23	36	12
特別支援学校	3	0	0	1	1
小中学校(普通)	3	2	4	6	1
他 機 関	1	0	0	2	4
計	47	21	28	43	18

(3) 施設職員等に対する療育技術指導

当センターで療育中の児童が通園している学校、幼稚園・保育園等の職員に診察に同席してもらい情報交換をおこなった。また、療育状況を見学してもらい、児童の状態、療育目的等を説明し園等での指導方法をアドバイスした。

《他施設職員等に対する療育技術指導数》

(単位：人)

対象施設	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
保育園・幼稚園	89	24	19	34	35
特別支援学校	23	21	9	20	13
小学校(普通)	96	62	85	70	67
中学校・高校	23	17	9	6	20
他機関	32	35	70	59	86
計	263	159	192	189	221

(4) 療育支援セミナーの開催

テーマ		第3回事例検討会
	発表者	白木剛志先生（長崎みなとメディカルセンター理学療法士） 「リハビリテーション部小児チームの取り組み～NICUから外来にかけて～」 古川美咲先生（長崎市障害福祉センター公認心理師・臨床心理士） 「ペアレント・トレーニングについて」
	日時	令和6年6月13日（木）19：00～20：30
	参加者	47名
テーマ		第4回事例検討会
	発表者	三根侑祐先生（長崎市障害福祉センター作業療法士） 「作業に焦点をあてた実践」 グループワーク
	日時	令和6年11月7日（木）19：00～20：30
	参加者	33名
テーマ		療育支援講演会 「乳幼児教育相談の実際と難聴乳幼児のことばの育ちと実践事例」
	講師	深堀睦美先生（県立ろう学校 乳幼児教育担当）
	日時	令和7年3月13日（木）19：00～20：30
	会場	研修室
	参加者	41名

V 相談支援事業

障害児・者やその家族等の相談に応じながら、障害者の自立と社会参加の促進を図ることを目的として、「1 実施内容」に示す5つの柱により事業展開している。

また、視覚聴覚障害者については、特にきめ細やかな事業により支援の充実を図っている。

今後も長崎市から委託された相談支援事業所として、自立支援協議会の運営協力をしながら地域の相談支援体制の整備を目指す。

1 実施内容

(1)福祉サービスの利用援助

長崎市近郊の福祉事務所やサービス提供事業所等と連携し、ホームヘルパー、デイサービス、ショートステイ等の在宅福祉サービスの情報提供や利用開始にあたっての調整などを行った。

また、相談対応についても生活状況や課題を把握しながら、具体的かつ総合的にサービス提供をするように心がけた。

(2)社会資源を活用するための支援

福祉機器の利用援助、外出・移動や住宅改修の助言、生活情報に関する相談に対応した。

(3)社会生活力を高めるための支援

在宅の障害者を対象に社会生活の幅を広げるための機会提供をした。

(4)ピア・カウンセリング

当事者である障害者団体等の協力を得ながら、聴覚言語相談員を中心に実施した。

(5)専門機関の紹介、関係機関との連絡調整

在宅障害児・者に対するサービス等利用計画作成や当事者及びサービス提供事業所等の担当者とともに担当者会議(個別ケア会議)を実施。また事業所、医療機関、学校、保育園等の関係機関からの問い合わせや相談に対して助言等を行った。

2 項目別相談件数

(1) 支援方法 (延べ人数)

(単位：人)

	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
電話相談	4,815	4,186	4,187	3,883	4,311
来所相談	2,173	1,959	2,099	2,006	2,045
関係機関	208	114	88	88	137
訪 問	337	362	367	388	224
個別ケア会議	134	129	155	116	104
同 行	70	61	43	37	40
電子メール	305	383	292	219	254
その他	323	265	475	709	627
計	8,365	7,459	7,706	7,446	7,742

※ その他は文書・ファクス等

(2) 主な障害の状況 (実人数)

(単位：人)

	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
身体障害	1,423	1,502	1,531	1,546	1,973
発達障害	100	64	50	58	45
知的障害	167	156	136	119	91
精神障害	87	70	79	95	88
重症心身障害	8	5	0	2	2
高次脳機能障害	3	0	4	0	2
その他※	1,993	2,329	2,421	2,350	2,256
計	3,781	4,126	4,221	4,170	4,457

※「その他」は、ほぼ診断や障害が定かでない幼児期から児童期の対象児である。

(3) 支援内容(延べ件数、重複あり、ピア・カウンセリング含む)

(単位：人)

	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
福祉サービス利用等に関する支援	3,384	2,951	2,828	2,792	2,825
健康・医療に関する支援	2,162	2,670	2,564	2,416	2,649
社会参加・余暇活動に関する支援	1,102	922	15	10	9
発達障害に関する支援	609	316	630	656	740
障害や病状の理解に関する支援	125	64	48	56	24
保育・教育に関する支援	227	227	140	147	107
家族関係・人間関係に関する支援	240	246	164	178	176
生活技術に関する支援	448	365	77	62	46
不安の解消・情緒安定に関する支援	79	68	59	68	55
就労に関する支援	107	112	42	40	43
家計・経済に関する支援	48	79	16	43	49
虐待に関する支援	18	16	6	18	17
権利擁護に関する支援	19	2	0	1	0
その他	929	572	488	512	770
計	9,497	8,610	7,077	6,999	7,510

(4) 相談者の内訳(重複あり)

(単位：人)

	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
家族・親族	2,639	2,728	2,877	2,644	2,775
本人	3,207	2,670	2,658	2,764	3,015
サービス事業者	1,544	1,213	1,264	1,084	1,158
その他関係機関	570	559	574	554	466
医療機関	318	280	283	295	232
学校・保育所等	122	70	84	62	59
就労先事業所	0	1	0	1	0
民生委員	1	0	0	0	0
自治会・近隣者	22	17	14	10	8
その他	309	267	463	434	432
計	8,732	7,805	8,217	7,848	8,145

3 聴覚障害者等への支援

(1) 聴覚言語相談員・手話通訳士等による生活支援

聴覚障害者の生活全般にわたる各種相談や手話通訳依頼に応じるとともに、聴覚と視覚等の重複障害を持つ障害者に対し、視覚障害リハビリテーション指導員と共に関わり、社会生活能力の向上を図った。

(単位：人)

年 度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
ピア・カウンセリング (聴覚言語相談員)	2,029	2,236	1,876	1,841	1,411

(2) 難聴者・中途失聴者向け手話講座

講座では、手話の学習のみならず障害の受容を促すための意見交換や福祉制度等に関する情報提供も行ったため、講座受講を契機に日常生活用具給付申請、各種行事やグループ活動への参加につながった。

《難聴者・中途失聴者向け手話講座実施状況》

(単位：人)

年 度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
参加者数	193	227	347	365	346

(3) 聴覚障害者生活支援事業

自宅にこもりがちな聴覚障害者を対象に、手話を使ったスポーツレクリエーションやゲーム等を主とした交流会を実施。

これまでひきこもりがちな聴覚障害者がこの事業への参加を契機に介護保険サービスの利用を始め、社会参加が広がったケースもある等、参加者の定着と広がりがみられた。また、介護保険関連施設入所者に対しては関係機関と連携し、手話でのコミュニケーションの必要性を説明することで参加ができるよう工夫した。

《聴覚障害者生活支援事業実施状況》

(単位：人)

年 度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
参加者数	105	131	182	218	206
ボランティア	67	87	117	119	120
計	172	218	299	337	326

(4) 視覚・聴覚重複障害者生活支援事業

視覚・聴覚の重複障害により、自宅にひきこもりがちな障害者を対象に、見えにくい・聞こえにくい方でも楽しめるゲーム等を主とした交流会を実施。介護保険関連施設入所者に対しては関係機関と連携し、コミュニケーションの必要性を説明することで参加ができるよう工夫した。継続して参加することで、コロナ禍で低下していた会話力の回復が見られた参加者もいた。

《視覚・聴覚重複障害者生活支援事業実施状況》

(単位：人)

年 度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
参加者数	21	9	29	37	38
ボランティア	62	54	84	115	110
計	83	73	113	152	148

4 視覚障害者等への支援

視覚障害リハビリテーション指導員を配置し、視覚障害者（見えづらい方やその家族含む）への相談・支援に努めた。

また関係機関と連携して支援することで、当事者の生活の質の向上や社会参加につなげた。

機能訓練においては歩行訓練（主に白杖と保有感覚を活用する訓練）、日常の困りごと解消のための訓練や点字訓練等、個々のニーズに応じた訓練を行うことで、社会生活能力の向上を図った。

《年度別相談支援実績》

（単位：人）

	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
相談・交流会等	763	389	387	389	878
視覚リハ訓練・点字訓練等	203	109	221	255	223
機能訓練（歩行訓練等）	131	35	11	45	6
計	1097	533	619	689	1107

（参 考）

※「視覚リハ訓練・点字訓練等」とは、1 時間程度の個別対応で機能訓練と同等内容（白杖の使い方指導・短期間の歩行訓練・点字訓練・日常生活動作訓練等）である。

※R3 年度より担当職員の勤務縮小のため中断していた、視覚障害当事者（家族も参加可）の交流の場の提供を再開した。それに伴い、医療機関からの紹介、交流会参加のための事前相談、参加後のフォローや関係機関との連携等の件数が増加している。

5 管理体制

相談支援事業所管理者	馬 渡 仁 美
相談支援事業所相談支援専門員	廣 岩 秀 徳

【総 論】

当センターの特色から、主に身体障害（視覚、聴覚を含む）の方と幼児・児童をもつ家族からの相談が多く占めている。総合相談窓口として多くの方の話を聞きする中で、福祉サービスに関することや生活問題など幅広い相談が寄せられており、多職種での対応や、当センターだけでは解決が困難な事例については他機関と連携して支援を行っているが、今後とも充実した支援ができるよう体制の強化を図っていきたい。

VI 自立訓練（機能訓練）事業

障害者が自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、当該障害者の身体その他の状況及びその置かれた環境を踏まえて、それぞれに適した訓練等を行った。

1 契約状況

① 契約者数 (単位：人) (※再契約)

	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
新 規	11	15(※1 含)	7(※2 含)	9	12
終 了	9	14	7	12	13
年度末契約者数	16	17	17	14	13

② 疾患別延べ契約者数 (単位：人・%)

疾 患 (障 害) 名	計	構成比(%)
脳血管障害・頭部外傷後遺症(うち高次脳機能障害を合併)	8(6)	31
神経・筋変性疾患(脊髄小脳変性症・パーキンソン病など)	8	31
脳性麻痺	3	11
頸髄損傷	2	8
整形疾患	1	4
視覚障害	1	4
精神疾患	3	11
合 計	26	100

③ 年齢別延べ契約者数 (単位：人・%)

	男性	女性	計	構成比(%)
19 ～ 29 歳	1	0	1	4
30 ～ 39 歳	1	4	5	19
40 ～ 49 歳	3	3	6	23
50 ～ 59 歳	2	4	6	23
60 ～ 64 歳	5	3	8	31
合 計	12	14	26	100

2 実施内容

(1) 機能訓練

身体機能、生活能力等の維持・向上を図るため、理学療法士、視覚障害リハビリテーション指導員による機能訓練等を行った。また、各専門職による個別の訓練に加え、集団体操やプール、スポーツレクリエーションなど幅の広いメニューを提供した。

《職種別訓練件数》 (単位：人)

	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
理 学 療 法 士	787	1,131	1,219	1,075	1,080
作 業 療 法 士	2	0	0	0	0
言 語 聴 覚 士	0	0	0	0	0
視覚リハ指導員	131	35	11	45	6
合 計	920	1,166	1,230	1,120	1,086
一日平均利用者数	3.8	4.9	5.1	4.6	4.5

※ 視覚リハ指導員の訓練回数は、相談支援事業と重複して記載

(2) 健康管理

看護師による血圧測定のほか、健康維持・管理のための必要な支援を行った。

(3) 相談支援

利用者及びその家族が抱えている課題に対する相談・助言等を、ソーシャルワーカーや相談員により行った。また、必要に応じて関係機関との連絡調整等を行った。

ケースの計画相談を担当している相談支援事業所から招集される担当者会議へは担当セラピストと共に積極的に参加し、ケースに関わる事業所間の連携強化に努めている。

(4) 送迎サービス

常時 2 台の送迎車を稼働して対応している。今年度より、必要に応じて送迎車に生活支援員が添乗することによって、乗車に介助を必要とする利用者へも送迎対応できるようにした。

(R 6 年度送迎サービス実施延べ人数：1,855 人※R 5 年度 2,044 人)

(5) 屋外活動

日頃、外出の機会が少ない利用者と市内の観光地やショッピングモール等に出かけていくプログラム。精神面でのリフレッシュ効果が得られるだけでなく、公共交通機関の利用や買い物体験など社会リハビリテーションとしてもニーズが高い活動となっている。利用者からは毎回好評を得ており、今後も引き続き、当事業の主要プログラムの一つとして計画実施していく。

<参加延人数：71 人>

4/1 他 2 日	さくらの里・山王神社	10/21 他 2 日	稲佐山 他
5/8 他 10 日	恐竜博物館 他	11/18 他 2 日	スタジアムシティ
6/14 他 3 日	めがね橋・茂里町周辺	12/4 他 2 日	スタジアムシティ他
7/22 他 2 日	軍艦島資料館・恐竜博物館	2/3 他 4 日	ランタンフェスティバル他
8/7	虹の架け橋フェスタ(出島Mette)	3/6 他 1 日	プラットモール・アミュプラザ
9/20 他 1 日	ブリックホールギャラリー		

(6) クッキング

「自立」における重要な生活関連動作のひとつとなる調理活動に小グループで取り組んだ。センターで体験した後は、自宅でも取り組んでもらえるよう調理工程はできるだけ簡単なメニューを選択するようにしている。

7/10	ピザトースト・豆腐のあんかけ
9/2 他 5 日	ピザトースト・豆腐のあんかけ・簡単ミルクケーキ
10/30	焼きそば
12/25 他 2 日	チョコチップマフィン
3/28	簡単プリン

3 管理体制

自立訓練（機能訓練）事業管理者

亀山富太郎

自立訓練（機能訓練）事業サービス管理責任者

吉村優子 稲田佳奈子 真崎美都子

【総 論】

近年、就労系の障害福祉サービス事業所が広く知られるようになり、特別支援学校卒業後や回復期のリハビリテーションを退院した障害者の多くは、その自立度の状態によって、日中活動の場を A 型就労事業所、B 型就労事業所、生活介護事業所に引き継がれ、地域での在宅生活を送ることが増えてきている。そのような中、当機能訓練事業に紹介されてくるケースは、送迎サービスエリア外に居住していることでの環境要因や車椅子使用など重度障害で送迎対応が困難、うつ病などの精神疾患を合併しており外出困難、行動障害があり集団生活になじめないなどの個人的要因を示す困難事例であることが増加している。このような困難ケースの受け入れが当事業所の大きな役割であると考えており、今後とも、送迎サービスの柔軟な対応や障害状況に応じた細やかな支援を提供していくよう努めていきたい。

Ⅶ 障害者就労支援相談所運営事業

障害者の就労に関する支援を行い、障害者の自立と社会参加の促進に努めた。

また、就労のための相談支援、雇用準備のための支援、情報提供などを実施した。

1 事業内容

- (1) 就労相談：発達障害者を含む障害者の就労に関する相談
- (2) 就労支援：就労面接や生活全般の助言、就職先の定期訪問、定着指導
- (3) 情報の収集及び提供：求人情報の把握と提供、実習情報の収集と提供
- (4) 関係機関との連携：ハローワークへの紹介アシスト、求人・求職情報の共有による連携、障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター及び就労支援施設との連携

2 就労支援相談の状況

- (1) 障害別新規登録者数 (単位：人)

障害区分	身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	その他	合 計
新規登録者	2	2	10	0	0	14

- (2) 主な就労相談支援状況

	新規登録者	有効登録者	来訪相談	電話相談	紹 介	就 職	施設入所
R2年度	19人	81人	223件	67件	10件	6人	9人
R3年度	15人	82人	199件	82件	4件	4人	6人
R4年度	15人	88人	163件	79件	8件	6人	6人
R5年度	13人	89人	133件	115件	13件	5人	7人
R6年度	14人	92人	164件	129件	24件	10人	4人

※R5年度就職数5人の内、引き続いての就労者数は4人（令和7年3月31日現在）

- (3) 相談・訪問件数等の推移 (単位：件)

	室内業務					室外業務				合計
	来訪 相談	電話 相談	関係機関 打合せ	その他	計	施設 訪問	企業 訪問	関係機関 訪問等	計	
R2年度	223	67	76	1,542	1,908	46	1	68	115	2,023
R3年度	199	82	56	1,521	1,858	31	2	5	38	1,896
R4年度	163	79	56	1,555	1,853	29	2	8	39	1,892
R5年度	133	115	120	1,695	2,063	86	4	32	122	2,185
R6年度	164	129	126	1,723	2,142	56	4	76	136	2,278

※室内業務「その他」は、実習・求人情報提供、施設定着確認等。

※室外業務「関係機関訪問等」は、令和3年度から障害者対象求人収集がハローワーク訪問から郵送へ変更となったため減少したが、関係機関連携強化を図る就労支援目的の訪問相談に積極的に取り組み件数が増加した。

【総 論】

令和6年度は、新型コロナウイルス感染症への対応が緩和され2年目となり、障害のある方々においても自発的に新たに動きだすことへの躊躇が薄らいできたものと見受けられ、電話相談や来訪相談も徐々に増加している。また、施設入所では減少したが一般就職が倍増した。

今後については、昨年度同様、施設や関係機関等との連携をさらに強化し、多くの方の相談、支援をより効果的に実施していく。

Ⅷ 児童発達支援センター「さくらんぼ園」単独通園

保育・療育計画、行事計画に沿って事業を実施した。

1 療育方針

心身の発達に遅れのある児童を早期療育することで、個々の成長と発達状況に応じた様々な遊びを経験させ、認知・行動・感覚の発達を促し、健康な身体づくり、基本的生活習慣の確立とコミュニケーション能力の育成等を図った。

家族との連携を密にし、児童の発達状況に合った療育をするとともに、関係機関と連携を図り、質の高いサービス提供と早期療育システムの確立に努めた。

2 日 課

8:50	10:00	10:40	11:50	13:00	14:30	15:40
バス内指導	自由遊び 日常生活指導	朝のお集まり 設定療育	給食 食事指導 歯磨き指導	自由遊び 設定療育 日常生活指導 帰りのお集まり	バス内指導	

3 療育内容

障害の程度や発達段階、年齢等を考慮したクラス編成による集団での療育を実施した。また設定療育を毎日行い、月3回の頻度で親子療育（主にプール活動）を実施した。

(1) 療育内容とねらい

①音楽遊び

音やリズムにより、心身ともにリラックスできる楽しい雰囲気の中で、児童の興味や発声、動きなどを引き出す。

②運動遊び

身体全体を使うことで運動機能を高め、ボディイメージを育む。

③触覚・感覚遊び

様々な素材に触れる経験をさせ、情緒の安定と感覚過敏の軽減を図り、手先の巧緻性を高める。

④認知課題遊び

カードや模型、実物などをマッチングすることで、物への関心を高めさせるとともに弁別力を高め、認知の力を高める。

⑤絵本の読みきかせ、手遊び、ペープサート等

ことばの理解を高め、傾聴態度を育てる。

⑥手先を使った遊び

操作性を高め、集中力を身につける。指示や説明を聞き、ことばの理解を高める。

⑦戸外遊び

公道を散歩したり、公共施設の遊具で遊んだりすることで、交通ルールや公共のマナーを守ることを体験し、身につける。

⑧ゲーム

簡単なルールを守ってゲームに参加し社会性を身につける。

⑨ふれあい遊び

マッサージや手遊び等を行い、やりとりする相手を意識することで人への興味・関心を高める。

4 クラス編成

ぱんだ組 11人(男児6人、女児5人)

自閉スペクトラム症児を中心に発達の程度は様々で、主に年中、年長児童が在籍するクラス

うさぎ組 10人(男児7人、女児3人)

自閉スペクトラム症児や肢体不自由児など障害や発達の程度、年齢が様々な児童が在籍するクラス

ぞう組 10人(男児9人、女児1人)

自閉スペクトラム症児を中心に発達の様子は様々で、主に年中、年長児童が在籍するクラス

5 給食

児童の摂食の状態に合わせた調理に努め、栄養バランスのとれた食事を提供し、併せて食事面での自立を図るための指導を行った。また、保護者を対象に給食試食会を実施した(年3回)。

災害時に備え、発達に応じた災害食を摂取できるように計画・実践を行った。

① 給食

- 給与栄養目標量を満たした給食の提供
- 偏食の改善や食べる意欲を高めるための給食の提供
- 嗜好、季節感、衛生面を考慮した給食の提供
- 咀嚼能力、嚥下能力に応じた給食の提供
- 災害・非常時における新奇場面で食事が摂れる経験をするための給食の提供

② 特別食

- 咀嚼機能や嚥下機能の発達に応じた個別の食事形態にして提供した。
粗刻み食(10人)⇒主食の麺及び主菜・副菜を咀嚼能力に合わせて刻んで提供
ムース追加食(4人)⇒刻み食+ムース(1人)と極小刻み食+ムース(1人)とムースを追加することで嚥下を促すようにした。食べるきっかけになる味見用のムースを普通食に追加した。(2人)
- 咀嚼機能を高めるための対応(18人)
⇒厚みのある肉を1cm角やスティック状のカット、果物の薄切りスライス。
- 手指の機能を高めるための対応(3人)
⇒自助器の使用(皿・斜皿・スプーン等)。自食を促すため麺や果物を一人ひとりに応じカット。
- アレルギー除去食対応(1人)
⇒卵・マカダミアナッツアレルギー児が食可能な献立作成。
- 食べ方・マナーを身につけるための対応(6人)
⇒スプーンやUコップを使った自食のための自助器の使用。正しい所作を促すための声かけ。他人の食事と自分の食事を区別するためにトレーの色を変えた。
- 偏食への対応食(23人)
⇒苦手な食材や料理を食べられるようにするために食器を別にして提供し、調理形態を増やして対応した。
- 就園・就学先への情報の提供(20人)
⇒特別食について情報提供書「もぐもぐ」を作成し、就園・就学先に提出した。
- 病状や体調に合わせた給食の提供(0人)
⇒病態に基づき喫食量の調整や手足の低体温の症状に合わせた給食の提供

6 年間行事

① 主な行事

実施月	行 事 名	実施月	行 事 名
4月	始園式	11月	歯科健診、交流保育
5月	こども日の集い、春の遠足、歯科健診	12月	内科健診、クリスマス会
6月	保育参観、内科健診	1月	消防署見学
7月	夏まつり	2月	豆まき
8月	交流保育	3月	ひな祭り、卒園式、ありがとうの集い
10月	運動会、秋の遠足		

※毎月：避難訓練、誕生会を実施

交流保育

感染症対策の一環で中断していた交流保育を再開し、稲佐こども園、中央保育所とは、互いの園にて夏と秋の2回交流を行い、山里平和保育園とは秋に当園でのみ交流を行った。

7 在籍児の利用状況

(1) 年齢別及び障害別内訳

(年度末現在／単位：人)

年 齢	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
自閉スペクトラム症（疑い含む）		4	4	9	17
自閉スペクトラム症（疑い含む）+精神発達遅滞					0
自閉スペクトラム症+知的障害(軽度)				2	2
自閉スペクトラム症+知的障害(中度)		1	3		4
自閉スペクトラム症+知的障害(重度)				1	1
自閉スペクトラム症+注意欠如・多動症(疑い含む)		1		1	2
知的な遅れ					0
精神発達遅滞				1	1
ダウン症候群					0
言語発達遅滞+自閉スペクトラム症	1				1
水頭症				1	1
脳梁形成不全症+大脳皮質形成異常症+焦点性てんかん			1		1
KAT6B 関連疾患+精神運動発達遅滞		1			1
合 計	1	7	8	15	31

(2) 卒・退園児、就学・就園先

就園・就学先	人 数
長崎県立時和特別支援学校	5
長崎県立鶴南特別支援学校	4
長崎大学教育学部附属特別支援学校	1
長崎市立西城山小学校 特別支援学級	2
長崎市立小櫛小学校 特別支援学級	1
長崎市立山里小学校 特別支援学級	1
長与町立長与南小学校 特別支援学級	1
計	15

(3) 園児の出席状況

(単位：日・人・％)

	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
開所日数（日）	234	234	227	232	234
延べ在籍児数①	7,173	7,386	6187	7,365	7,272
延べ出席児数②	5,713	5,647	4806	5,377	5,497
出席率※（％）	79.6	76.5	77.6	73.0	75.6

※出席率（％）＝延べ出席児数②÷延べ在籍児数①×100

8 専門スタッフとの連携

児童にけいれん発作や体調の悪化等が生じたときは、速やかに診療所に連絡を取り、医師・看護師による指示のもと対応した。

また、療育支援会議に参加し医師やセラピストと発達状況や療育方針について情報を交換した。各クラスとも毎月、担当セラピストと合同勉強会を行い、支援目標や療育内容について指導・助言を得た。

9 家族支援

保護者向けの勉強会である家族教室(年 12 回実施)では、当センターの職員だけでなく、講座後の保護者アンケートを参考にして、外部講師やペアレントメンターを招いて幅広いテーマで講座を開催するように努めた。今年度は保護者同志の親睦を深める企画が好評だった。

《家族教室の開催状況》

日程	テーマ・主な内容	担 当
4 月	新年度を迎えて＆クラス懇談会	園長、担任（保育士・児童指導員）
5 月	こどもの遊びを体験してみよう ～感覚統合の視点から～	作業療法士
6 月	先輩ママの体験談&座談会	卒園児保護者
7 月	楽しく、美味しく、クッキング ～皆さんで給食の献立を作ってみましょう～	管理栄養士
8 月	ペアレントメンターさんとお話会 大人になった我が子のことを一緒に考えましょう～	ペアレントメンター
9 月	ことばの力を育てるかわり方のコツ	言語聴覚士
10 月	子どもの体と心の話 ～幼児期から考える性のおはなし～	長崎大学教授 宮原晴美先生
11 月	さくらんぼ園の療育について＆クラス懇談会	担任（保育士・児童指導員）
12 月	クリスマスリースを作ろう ～おしゃべりしながら一緒に作りましょう～	保育士
1 月	先輩ママの体験談&座談会	卒園児保護者
2 月	幼児期から学童期 お友だちとのつきあいかた	長崎大学教授 岩永竜一郎先生
3 月	一年をふりかえって（クラス懇談会）	園長、担任（保育士、児童指導員）

10 就学支援

保護者が就学先を選択しやすいように学校公開や体験入学等についての情報提供を行った。

また就学後も一貫した支援が受けられるよう、就学先に情報提供書を提出し、就学先からの来園を受け入れ直接情報提供や意見交換も行った。

(単位：人)

就 学 先	件 数			
	電 話	訪 問	来 園	情報提供書
長崎県立時和特別支援学校				5
長崎県立鶴南特別支援学校			1	4
長崎大学教育学部附属特別支援学校			1	1
長崎市立西城山小学校 特別支援学級			2	1

長崎市立小神小学校 特別支援学級	1			1
長崎市立山里小学校 特別支援学級			1	1
長与町立長与南小学校 特別支援学級			1	1
合 計	1		6	1 4

11 地域との連携

就園前や就園後(並行通園も含む)において、児童の発達状況に応じた課題設定や環境整備、対応法などの情報交換を行った。

(単位：人)

連 携 先	件 数				
	電 話	来 園	訪 問	個別支援計画	情報提供書
認定こども園 聖母の騎士東長崎幼稚園	-	-			1
認定こども園 友愛社会館幼稚園	-	-			2
みやま幼稚園	-	1			1
ルンビニーこども園	1	-			1
合 計	1				5

12 研修(施設内研修)

①外部講師による研修会

日程	内 容	講 師
7/31	救急救命法について～応急手当講習手当講習一般救急講習(応急手当てに関する座学)	北消防署 消防隊員(救急隊) 森氏
10/16	不器用な子どもたちの理解と支援について	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授 岩永竜一郎先生
11/27	遊びを通した療育～気になる子どもの集団 参加 step by step～	元長崎県立こども医療福祉センター医療 福祉センター 保育士 新井加代子先生
2/12	ASD の学び方について	長崎大学子どもの心の医療・教育センター 作業療法士 梅村亜衣先生

②センター講師による研修会

日 程	内 容	講 師
5/22	プール活動について(基礎と実技)	川崎保育士
6/26	摂食について I	中村管理栄養士 増田言語聴覚士
7/24	発達障害の子どもたちの理解と支援	井上小児科医
8/7	療育の切り口	穂山整形外科医
8/28	感覚について	江頭作業療法士
9/6	虐待防止研修	金柿保育士

9/11	子どもの発達評価の視点 ～新版 K 式発達検査を通して～	井上臨床心理士
1/22	摂食についてⅡ（事例検討・発表）	さくらんぼ園職員
3/26	強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践編）	館保育士、藤山児童指導員・駒田保育士（伝達研修）
	水泳プール安全管理講習会	春本保育士（伝達研修）
	地域療育従事者研修編 （小児発達編 肢体不自由児編）	濱田児童指導員 藤永児童指導員（伝達研修）
	児童福祉施設等の食事の提供に関する研修	中村管理栄養士（伝達研修）
	特定給食施設等の調理従事者研修会	中村管理栄養士（伝達研修）
	BCP 訓練研修	芦塚保育士（伝達研修）
	障害のある人を支援する防災研修会 ～社会情勢を踏まえた災害時の障害支援～	芦塚保育士（伝達研修）

③実習生・見学者等の受入れ

実習生	長崎大学精神保健・メンタルヘルス実習	10人（5/9, 14, 23, 28）
	純心大学人文学科こども教育保育学科実習	1人（8/19～9/3）
	活水女子大学健康生活学部子ども学科実習	2人（11/11～11/22）
	長崎大学教育学部幼児教育コース	1人（2/10～2/25）
見 学	幼児課職員（研修）	4人（6/21）
	デイスペースきみいる	1名（2/19）
	放課後等デイサービスうらかみえきまえ、いわかわ	2名（2/27）

13 地域障害児支援体制強化事業

今年度から児童発達支援センターとしての機能強化を図り、地域の保育園や幼稚園、子ども園対象の研修会と卒得園児を含む保護者対象の研修を実施した。

日程	内容	講師
10/16	不器用な子どもたちの理解と支援について	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授 岩永竜一郎先生
11/27	遊びを通じた療育 ～気になる子どもの集団参加 step by step～	保育士 新井加代子先生
2/26	幼児期から学童期 社会性とコミュニケーションの育ちについて ～友だちづきあいを支援するには～	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授 岩永竜一郎先生

14 管理体制

児童発達支援センター「さくらんぼ園」管理者 増田ゆかり
 児童発達支援センター「さくらんぼ園」児童発達支援管理責任者
 （専任） 川崎和枝
 （兼任） 芦塚真理子 中村真由美 諸熊杏子

【総論】

- 延べ在籍児数は減っているが、年度途中から転居や就園があったものの延べ利用児数は微増している。健診時に児童発達支援事業所をすすめられていることもあり、当園の利用開始時にすでに他の事業所を利用している児が増えている。関係機関との連携をより深め、互いに協力し合って支援を充実させていきたい。
- 今年度は、運動会や夏まつり、クリスマス会だけでなく季節の七夕や豆まき等の行事も 3 クラス合同で実施し、地域の保育所との交流保育もコロナ禍前と同様に再開することができた。今後も、児童がより大きな集団を経験する機会を大切にして移行支援の充実を図りたい。
- 地域障害児支援体制強化事業として、地域の保育園や幼稚園、子ども園の職員を対象にした研修を 2 回実施し、いずれも 100 名を超える参加があった。児童発達支援センターとして地域で望まれている支援の把握に努め、次年度は障害児通所事業所を対象にした支援も検討している。

児童発達支援センター「さくらんぼ園」 親子通園

児童の発達状況と障害の程度を考慮したグループ分け（13グループ編成）し、それぞれに対する発達支援に努めた。セラピストは、年長児グループを中心にに関わり、保護者支援としてセラピストによる就学支援と保護者講座等を実施した。

1 グループ編成

	月	火	水	木	金
午前	Q とまと	A みかん	F りんご	H もも	S にんじん
	ADHD (2～3歳児)	自閉スペクトラム症 (1～2歳児)	発達障害 知的障害 (3～4才児)	自閉スペクトラム症 (2～3才児)	ADHD (2～3歳児)
	R いちご	G めろん		C ぶどう	障害児等療育支援事業
	自閉スペクトラム症 (1～2歳児)	自閉スペクトラム症 (1～2歳児)		自閉スペクトラム症 (2～3才児)	くま組 精神運動発達遅滞 脳性まひ他（未歩行） (1～5歳児)
午後	N たんぽぽ	I さくら 発達障害 知的障害 (年長児)	E すいか	M こすもす	J ひまわり 発達障害 知的障害 (年長児)
	発達障害 (年中・年長児)		発達障害 (3～4歳児)	発達障害 知的障害 (年中・年長児)	

2 療育内容

① A・G・Rグループ

自閉スペクトラム症とその疑いのある児を対象に超早期療育を実施し、保育者が1対1で関わり、遊びを通して対人関係の力を身につけることを目的とした。

作業療法士・臨床心理士は専門的な視点に関わり、家庭での親子の関わりについても助言を行った。

② C・H・Q・Sグループ

A・G・Rグループの終了後も継続して自由遊び場面で対人関係を学び、それに加えて短時間の設定療育を取り入れながら小集団療育に移行するための準備に取り組んだ。

③ Eグループ

基本的生活習慣の自立と、自由遊びと短時間の設定課題を通して、やりとりのルールや簡単な指示に沿って行動することなど集団で必要なスキルを身につけることに取り組んだ。

④ Fグループ

基本的生活習慣の確立と、簡単なルールのある遊びや設定課題を通して社会性を高め、集団生活に必要な力を身につけることに取り組んだ。

⑤ I・Jグループ

集団生活に必要なスキルを身につけること、行動や感情のコントロールができるようになること、自分の気持ちを言葉で伝え、人と良い関わりができるようになる力を育てることなどに取り組んだ。

セラピストはそれぞれの専門的な立場から助言指導を行い、ミニ保護者講座を実施した。保育者は活動の目的やねらいを保護者に具体的に説明し、就園先や家庭での悩みや心配事に対応するために懇談会を実施した。

⑥ M・Nグループ

運動能力の向上や社会性を高めること、状況に応じたことばの表現の獲得などを目的に、小集団で行うゲームや製作、様々な設定課題に取り組んだ。また活動を通して成功体験を積み自信が持てるようにした。懇談会では、保護者同士、保育者の助言も参考にしながら悩みや心配ごと

ついて意見交換を行った。

A・G：作業療法士、保育士、児童指導員

E：作業療法士、保育士、児童指導員

I：作業療法士、保育士、児童指導員

J：作業療法士、保育士、児童指導員

R：臨床心理士（～11月）・保育士、児童指導員

3 年間行事等

クリスマス会や節分、ひな祭り等季節の行事にちなんだ活動を、期間を設定し各グループで実施した。運動会についても新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の感染予防・防止のため単独との合同では実施せずグループ毎に実施した。

避難訓練については、確実に避難訓練を経験できるよう期間を設定し、単独通園と合同の避難訓練に加え、スロープ避難体験や地震・火災の避難訓練等を実施した。

4 利用状況

(1) 年齢別・障害別内訳（年度末現在）

（単位：人）

年 齢	0才児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合 計
精神発達遅滞			2	1	1	1	5
自閉スペクトラム症		1	4	2	5	10	22
自閉スペクトラム症（疑い）		1	6	5	1	3	16
注意欠如・多動症					1	6	7
注意欠如・多動症（疑い）		1			1	2	4
言語発達遅滞		1	7	1	3	1	13
構音障害					1		1
その他		1	2	1	1	1	6
合 計	0	5	21	10	14	24	74

(2) グループ別登録児数（年度末現在）

（単位：人）

グループ	A	C	E	F	G	H	I
登録児数	3	7	2	9	2	8	10
グループ	J	M	N	Q	R	S	計
登録児数	6	9	5	6	1	6	74

※ Kグループは令和2年度からJグループに統合 ※Bグループは、障害児等療育支援事業「くま組」として実施。

※ O Pグループは I Lグループに統合 ※Lグループは令和6年度からIグループに統合

5 進路状況（契約終了後の処遇状況）

就 園	外来療育	3人
	療育終了	3人
他の事業所		2人
その他（転居等）		5人
合 計		13人

6 園児の出席状況

(単位：日・グループ・人)

	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
開所日数	234	234	229	234	234
グループ数	15	15	15	14	13
在籍実人数	94	81	73	74	74
延べ出席児数	2,359	1,997	1,606	1,932	2,127
1 日平均人数	10.1	8.5	7.0	8.3	9.0

7 保護者支援

すべての保護者を対象に保護者講座を実施し、療育支援や育児支援についての情報提供を行った。

① 全保護者対象

	内 容	講 師
4/24	「きりん組ってどんなところ？ ～親子療育の1年の流れについて～」	保育士
7/6	「愛着ってなあに？ ～幼児期の親子のかかわり方～」	外部講師
10/30	「ペアレントメンターさんとお話会」	ペアレントメンター
11/27	「幼児期の食のお話」	管理栄養士
1/29	「先輩ママの体験談 ～ようこそ先輩！～」	きりん組卒園児保護者

② グループの保護者対象

	Jひまわり：(年長児) 作業療法士
4 月	【懇談会】自己紹介
6 月	【懇談会】就学に向けて準備を始めましょう
7 月	【懇談会】夏休みの過ごし方
9 月	【ミニ講座①】前庭感覚について 【ミニ講座②】触覚について
10 月	【ミニ講座③】固有感覚について
3 月	【懇談会】1 年間を振り返って

【総論】

親子通園では、児童それぞれの特性に合った支援を行うために、関係機関からの情報をもとにグループ編成を行い、支援目標及び支援内容を明確にするなど、児童それぞれの発達状況と発達特性に合わせた療育方針とした。

個別支援計画の説明や保護者の意向の確認、モニタリング等を定期的に行うだけでなく、保護者の不安や心配事に丁寧に対応するために随時個人面談を実施した。

就園先や並行通園先には、保護者の同意を得て親子通園（きりん組）での支援内容や活動の様子について、情報提供書や電話、訪問等により情報提供と意見交換を行い一層連携が深まるように努めた。

在籍実人数はここ3年間横ばいが続いているが、4年ぶりに延べ出席数が2,000を超えた。出席率が改善していることについては、直接相談で療育に繋がるケースが増えており、より療育を必要と感じている保護者が増えているものと考えられる。今後、親子療育の長所を生かし、本人支援はもちろんのこと、保護者支援も充実させていきたい。

保育所等訪問支援事業「さくらの木」

集団生活にうまく適応できない保育所、幼稚園、学校等に通っている児童を対象に、地域の保育所等で円滑に集団生活ができるよう支援を行うため、令和7年1月から当事業を開始した。

1 契約児数

	利用相談者数	新規契約者数	継続契約者数
1月～3月	2	0	0

2 相談者内訳

保護者から利用について相談があったが、関係機関との連絡調整中で契約にはいたっていない。結果としては利用につながらなくても事前相談や丁寧なアセスメントはその後の関係機関との信頼関係を築くためにも欠かすことができないものとする。

	電話	面談	訪問	その他	合計
保護者	4				4
相談支援事業所	1				1
幼稚園・保育園・子ども園等	2				2
合計	7				7

【総論】

支援開始にあたって、リーフレットやホームページを作成し周知を行った。また、保護者からの相談を受けて相談支援事業所、保育園幼稚園等とやりとりし生活状況や支援等の現状を把握に努めた。事業開始が年度末に近く、児童にとって環境の変化が大きい時期だったため、4月以降に契約を予定しているケースもあるが、実際に契約に至ったケースは現時点ではない。

今後も周知を継続し、地域状況の把握に努め、さくらんぼ園の地域障害児支援体制強化事業や地域の相談支援事業所等とも連携しつつ、実績を積み、当事業を実施していきたい。

IX 診療所

保険診療機関として、整形外科・リハビリ科、小児科、精神科（月 1 回）の外来診療を行っている。発達障害児(疑いも含む)に対する診療・評価・薬物治療を行うほか、診察・評価結果に基づき適切な訓練・療育を行った。また、長崎市内の医療・療育機関スタッフ、教師等を対象に発達障害に関する知識と対応への技術向上、普及を目的とする研修会を実施した。精神科外来においては、強度行動障害や精神的に不安的な状態についての判断や相談にも応じた。

1 診療数

(単位：人)

	R 2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
整 形 外 科	1,096	1,067	1,280	1,187	900
小 児 科	7,793	8,459	7,920	8,098	8,632
精 神 科	55	63	75	92	151
計	8,944	9,589	9,275	9,377	9,683

(1) 整形外科・リハビリ科

① 新患数

(単位：人)

	R 2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
新患数	61	57	56	55	58

②新患の年齢別・障害別内訳

(単位：人)

	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	小学生	中	他	合計
脳性麻痺	1	2	1	0	1	0	0	0	0	5	10
運動発達遅滞、または障害	5	5	3	0	0	4	2	5	1	0	25
精神運動発達障害	5	0	0	1	0	1	0	1	0	0	8
精神発達遅滞	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳血管障害(片麻痺)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
外傷疾病後遺症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6
関節症などその他障害	0	0	1	1	2	1	0	1	0	0	6
計	11	7	5	2	3	6	2	7	1	14	58

※新規患者のうち、0 歳・1 歳からの早期療育開始児が約 31.0%を占めている。

※国立病院機構長崎病院と連携したボトックス治療を小児 35 人(前年度 29 人)、成人 23 人(前年度 19 人)、計 58 人(前年度 48 人)に実施した。併せて、脳性麻痺児に対して痙性抑制キャストを延べ 2 人行った。

※重症心身障害児は早期の介入が重要なため、必要に応じて月に 4 回、集中的に運動療法を行っている。

※整形患児と発達障害児を対象としたインラインスケート&ラグビー親子教室(療育等支援・月に 2 回)で立位バランスの強化、集中力の向上、およびコミュニケーションや社会性の向上を図った。

③ 紹介元機関

(単位：人)

長崎大学病院	13	乳幼児健診(子育てサポート課)	5	計 58
その他の病院	15	センター (A 型センター)	1	
センター内小児科	16	直接相談	8	

(2) 小児科・リハビリ科

① 新患数

(単位：人)

	R 元年度	R 2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
新 患 数	546	446	482	540	522	766

常勤医師 1 名増と新患枠増に伴い、前年度に比して大幅な増加となった。

② 新患の年齢別・障害別内訳

(単位：人)

	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	小学生	中学生	高校生	高校生 以上	合計
精神発達遅滞	0	1	6	5	5	5	2	7	2	0	0	33
運動発達遅滞・障害	0	2	10	5	4	2	0	1	0	0	0	24
自閉スペクトラム症	0	4	45	49	50	29	9	26	3	0	0	215
注意欠如・多動症	0	0	12	32	96	83	25	99	7	1	0	355
言語発達遅滞	0	1	23	21	15	5	0	0	0	0	0	65
構音障害	0	0	0	2	10	11	2	1	0	0	0	26
吃音	0	0	0	0	4	1	0	0	0	0	0	5
限局性学習症	0	0	0	0	0	0	0	5	3	0	0	8
適応障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
定常発達	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	1	1	9	5	4	12	1	1	1	35
計	0	8	97	115	193	141	42	151	16	2	1	766

※全体の 78%が未就学児、22%が就学児。今年度は特に小学生の受診（前年度 79 名）が増加。

※診断名では前年同様、注意欠如・多動症（ADHD）が約半数、学童では約 6 割となっている。

③ 紹介元機関

(単位：人)

乳幼児健診(子育てサポート課)	295
直接相談	126
センター巡回	97
その他の病院	58
小、中学校・教育機関	57
その他の療育施設	37
幼稚園・保育園	32
長崎大学病院	30
行政機関	22
センター内整形外科	12
計	766

※例年同様、紹介元は乳幼児健診からの紹介が最も多く全体の 39%。主訴は言葉の遅れが最も多く 27%。

④ 主訴

(単位：人)

言葉の遅れ	204
落ち着きのなさ	116
かんしゃく・感情コントロール	80
不注意・注意力散漫	79
対人関係・社会性の遅れ	70
学習面の遅れ	70
発音不明瞭、吃音	47
こだわり	27
発達全般の遅れ	23
適応障害	20
運動面の遅れ	9
場面緘黙	7
感覚過敏	5
その他	9
計	766

⑤研修会 長崎市療育研修会 5回シリーズで実施

目的：長崎市内の医療機関スタッフ、教師等の技術向上と普及を目指す

対象：医師 看護師 指導員 療法士 心理師 保育士 教師等

場所：長崎市障害福祉センター 2F 研修室

日 時：

第1回 令和6年9月27日(金) 19:00～21:00

第2回 令和6年10月25日(金) 19:00～21:00

第3回 令和6年11月29日(金) 19:00～21:00

第4回 令和7年2月28日(金) 19:00～21:00

第5回 令和7年3月28日(金) 19:00～21:00

第1回 はじめまして CARE™ (Child-Adult Relationship Enhancement)

～子どもと大人の絆を深めるプログラムのご紹介～

カメラリア大村椿の森学園 / 一般社団法人日本 PCIT 研修センター 上地彩香先生

第2回 特別な配慮が必要なこどもの性発達と支援

長崎大学名誉教授 医学博士 宮原春美先生

第3回 「うちの子、学校に行かないんです」 どうしたらいいんでしょうか？

長崎県立こども医療福祉センターセンター長 小柳憲司先生

第4回 作業療法士の評価 (WAVES など)

長崎市障害福祉センター 作業療法士 廣中菜々子先生

第5回 強迫症について

あきやま病院 精神科医 一ノ瀬仁志先生

参加人数：第1回 75名 第2回 57名 第3回 62名 第4回 46名 第5回 48名

2 療育・リハビリテーション

理学療法士 4人、作業療法士 6人、言語聴覚士 6人、臨床心理士 4人により次の業務を実施。

- (1) 評価、個別療育
- (2) リハビリテーション実施計画書及び経過報告書の作成
- (3) 療育内容証明書の作成
- (4) 検査結果報告書の作成
- (5) 支援会議の資料作成及び支援会議への参加
- (6) 理学療法士は、整形外科外来診察補助(毎週木曜日午後)・早期療育外来診察補助(毎週木曜日午前)

《セラピストの訓練数》

(単位：人)

	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
理学療法士	2,889	2,493	2,469	2,408	2,561
作業療法士	2,822	3,241	3,633	3,764	3,768
言語聴覚士	1,696	2,853	3,118	3,382	3,284
臨床心理士	2,090	2,410	1,902	1,922	2,204
計	9,497	10,997	11,122	11,476	11,817

3 巡回相談（保育園・幼稚園等）

発達障害児の早期発見・早期支援のため、平成 18 年度から長崎市内の保育園・幼稚園・こども園の巡回相談を実施している。令和 6 年度は、相談児数や内容にあわせて 1～2 人のスタッフで実施

した。専門機関への受診を勧めるだけではなく、幼稚園・保育園、家庭で児の特徴にあわせた支援をおこなうため、園のスタッフや保護者に対して、発達障害児に合わせた支援方法や対応方法を提供し、適切な支援を行うためのアドバイスを行った。

《年度別巡回相談の実施状況》

(単位：箇所・人)

	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
巡回数(箇所)	161	157	167	155	155
新規相談数	361	333	375	333	380

4 学童グループ

今年度は昨年度に引き続き、計 3 グループで実施した。低学年のグループでは傾聴態度を伸ばし、他者と安心して楽しく関わる経験を積めるように意識して、ルールのある活動やコミュニケーション課題を実施した。高学年のグループでは適切な会話を続けることを目的に『PEERS（社会適応に重要な役割を果たす“友達作り”と、その良い関係を維持していくために必要なスキルに焦点したソーシャルスキルトレーニング）』を中心に実施し、適切な人間関係を築ける機会とした。学童グループ参加の希望者はやや増えてはいるが、実際に始めると欠席が続くケースも見受けられた。服薬治療等の診察医のフォローや放課後等デイサービスなど学童期での福祉サービスの充実によってグループ以外での療育や相談窓口が充実していることも背景となっていると考える。

① 学童グループ数の推移

(単位：グループ・人)

	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
グループ数	2	3	2	3	3
訓練総数	119	127	78	126	185

② 小学生のグループ内容

グループ	学童 1 (わくわく)	学童 2 (フルーツ)	学童 3 (すいすい)
年 齢	小 3～6	小 4～6	小 2～4
対 象	ADHD・ASD	ADHD・ASD	ADHD・ASD
目 標	◎具体的なルールや約束が設定された場面で、ルールを理解し守る経験を通して、自信をつけます。 ◎行動と感情のコントロールを促します。 ◎ゲームや発表などの活動を通して、友達との協力の仕方や声のかけ方、話の聞き方など、コミュニケーションのスキルを高めます。	◎具体的なルール・約束が設定された場面で行動と感情のコントロールを促します。 ◎ゲームや発表などの活動を通して、周囲との協力の仕方や声のかけ方、話の聴き方など、コミュニケーションスキルを高め、また自己理解を深めていきます。	◎具体的なルールや約束が設定された場面で、ルールを理解し守る経験を通して、自信をつけます。 ◎行動と感情のコントロールを促します。 ◎ゲームや発表などの活動を通して、友達との協力の仕方や声のかけ方、話の聞き方など、コミュニケーションのスキルを高めます。
実施回数	11 回	11 回	10 回
延べ人数	68 人	58 人	59 人

5 ペアレントトレーニング

小児科医、臨床心理士がチームを組み、後期に1グループ（全10回）で実施した。例年は前期・後期の2グループ（各グループ全10回）で実施するが、前期のグループは人数が集まらず不開催となったため、R6年度は後期のみ実施した。なお、不開催時に参加を希望された方には、診療所と連携して臨床心理士との個別面談の実施や診察でのフォロー等を行った。

また、ペアレントトレーニングの効果を継続させること・その後の経過観察を目的として、前年度実施の保護者を対象にフォローアップを行った。

なお、グループの欠席者には個別の補講を5回実施した。

【参考：ペアレントトレーニングとは】

発達に課題を持つ子どもに対して、身近にいる家族こそが子どもに適切な行動を学習させる一番の訓練者になれるという考えに基づいたプログラム。

このプログラムを通じて、子育てについての悩みを親同士で話し合い、それぞれの子どもの行動を理解し、適切な対応を一緒に考え学習していくことを目的としている。

① 令和6年度の実施状況と登録者数 (単位：人)

	実 施 日	登録保護者
前 期 0回	人数が集まらず中止になったため不開催	0
後 期 10回	11月13・27日、12月11・25日 1月8・22日、2月12・26日、3月12・26日	6
フォロー アップ	4月10日・10月9日	7

② 年度別実施状況と受講者数 (単位：人)

	前期	後期	フォローアップ	合 計	延べ人数
R2年度	6	5	3 (R元年度後期対象者)	14	106
R3年度	5	6	6 (R2年度前期・後期対象者)	17	113
R4年度	6	5	9 (R3年度前期・後期対象者)	20	98
R5年度	6	3	11 (R4年度前期・後期対象者)	20	88
R6年度	0	6	7 (R5年度前期・後期対象者)	13	65

③ 利用者の意見等

「参加する前は行動を正すために注意しなければと思い、怒ることがほとんどで褒めることが少なかったが、褒めることを意識するようになった」、「子どもの行動を客観的に理解、分析することで子どもの新たな側面を発見できた」、「子どもが可愛いと思えるようになった」、「自分だけこんなに大変なのかと悩んでいたが、同じように悩んでいる他のお母さんと同じ悩みを共有することができ、自分だけじゃないと自分自身の気持ちが楽になった」、「みんなの前で発表することで次はこうしてみようなど前向きになれた」などの感想が聞かれた。

- ・ 参加前後に実施している「子育てに対する自信度アンケート」では、多くの保護者が、参加後に高い得点になっており、この学習を通し、以前よりも子育てに対する自信がついたり前向きに子どもと向き合えるようになったと考える。
- ・ 令和6年度は、新型コロナウイルス感染症による行動制限緩和により、従来通り制限等を行わずに実施することができた。また、令和6年度よりロールプレイ(参加者が母親役と子供役を演じて実際に関わり方の練習をする)も再開し、より理解を深めることが出来た。

【総論】

子どもの発達に不安がある親子が近年は多くなっており、診療所での診断を求めて来所されることが増えているため、診療待機が長くなっていることが課題である。そのような中でも保健所や他の施設・病院との連携を図りながら待機の解消に努めてきており、特に4月から常勤医師1名を増員したことから、年度当初は10か月程度であった診療待機期間も年度末には6か月を切るまでに改善できた。

今後も引き続き、小児科診療待機の解消に全力をあげるとともに、当事業団のさまざまな職種の専門職が協力し、より質の高い療育を行っていきたい。

参 考

障害福祉センターの主な利用状況等の推移

事 項 等	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
身体障害者福祉センター A 型					
貸室利用者数（個人・団体）	39,235	36,154	43,573	53,474	58,138
A 型訓練数（自主訓練・スポーツレク等）	9,358	9,584	11,703	10,813	9,813
〃 （言語訓練）	144	152	173	111	211
A 型講座利用者数	75	100	279	240	296
手話通訳件数	2,826	3,368	3,678	3,895	4,029
サポーター養成研修会参加者数	0	11	0	0	30
地域活動支援センターⅡ型利用者数	12,507	7,911	6,476	6,966	6,646
障害児等療育支援事業					
外来による療育指導件数	3,653	4,014	3,557	974	589
おやこ広場利用者数	14	7	9	24	16
就学児相談会相談件数	21	20	15	27	13
訪問による療育指導数	47	21	28	43	18
施設職員等に対する療育技術指導数	263	159	192	189	221
療育支援セミナー参加者数	60	176	81	202	121
相談支援事業					
相談支援延人数	8,365	7,459	7,738	7,446	7,742
難聴者・中途失聴者手話講座参加者数	193	227	347	365	346
聴覚障害者生活支援延人数	172	218	182	218	206
視覚・聴覚重複障害者生活支援延人数	83	70	29	37	38
視覚障害者リハビリテーション指導数	1,097	533	547	689	1,107
自立訓練（機能訓練）実施回数	981	920	1,230	1,120	1,086
就労支援相談（相談、訪問、情報提供）件数	2,084	2,023	1,892	2,185	2,278
児童発達支援センター					
さくらんぼ園（単独通園）延出席児数	5,713	5,647	4,806	5,377	5,497
さくらんぼ園（親子通園）延出席児数	2,359	1,997	1,606	1,932	2,127
診療所					
診療数	8,944	9,589	9,275	9,377	9,683
診療セラピストの訓練数	9,497	10,997	11,122	11,476	11,817
巡回相談件数（発達障害早期発見・支援）	361	333	375	333	380
ペアレントトレーニング延受講者数	106	110	98	88	65
合 計（参考）	150,364	103,440	109,828	117,601	122,513

監 査 報 告 書

令和 7 年 5 月 27 日

社会福祉法人
長崎市社会福祉事業団
理事長 武 田 敏 明 様

監事 松 村 正 信



令和6年4月1日から令和7年3月31日までの令和6年度の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、担当職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務の状況を調査しました。以上の方法により、当該会計年度に係る業務報告等（事業報告及びその附属明細書）について検討いたしました。

2 監査意見

1, 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告等は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

2, 全ての重要な点において監査の結果、別表のとおり適正と認められた。

(別表) 監事監査重点項目

業務監査

監事

松村 正信

事 項		監 事 意 見
法人の組織運営状況 (規程、役員・理事会・ 評議員会)		※適正である。
法人の組織運営状況 (人事・労務管理)		※適正である
事業(活動)状況、施 設・事業の運営管理状況		※適正である。
福祉サービスの質の向上 のための取組状況		※適正である
その他		※無
法人 及 び 事 業 の 会 計 状 況	会計帳簿の状況	
	予算の編成状況	
	出納・財務の状況	
	契約状況(契約方 法、入札方法)	
	資産の管理状況	
	拠点区分間・サービ ス区分間の資金異動 状況	
	決算書類の作成状況	
	法人の財務状況等	
その他		